

大山詣り

春海を歩く

7月1日を「山開き」とし、この日から山に入ることが許されるという習わしがあります。市内でもこの日に「お浅間様」「浅間詣り」などといって浅間神社に詣る地域もあります。

各地区にまつられる神社には本殿の祭神のほか、「阿波様」と呼ばれる「大杉大明神」(大杉神社・茨城県稲敷市)、「三峰大権現」(三峯神社・埼玉県秩父市)、「金毘羅大権現」(金刀比羅宮・香川県仲多度郡琴平町)などの石祠(石のほこら・石宮)を境内で目に



水神社にある石尊大権現の石宮

することができません。これは個人の寄進による造立もありますが、多くは講中(信仰する仲間)でまっつています。古典落語の演目にもある「大山詣り」にまつわる「石尊大権現」を紹介します。

神奈川県伊勢原市大山にある「大山阿夫利神社」は、江戸時代に同社を参詣する講(大山講)が関東各地に組織され多くの庶民で賑わったとされています。

市内では春海・水神社(椿海地区)境内の石宮を含め4か所で見つかっています。こ

の大山講供養塔は高さ90cm余りの石宮で、1851年11月に造られました。台石の部分に講員50人の名が刻まれ、興味が引かれるのは伊藤、石毛、石橋、鶴沢、川島、日下部、椎名、杉山、鈴木、山崎、吉田などの姓が付けられていることです。

春海・水神社は椿新田の干拓後、1678年に新田3社の1社としてまつられた由緒を持ち、広い耕地に雨をもたらす神として信仰されました。大山阿夫利神社も古くから雨乞い信仰で知られたため江戸時代後期、春海村の人たちも講員の中から毎年代表者を選び「大山詣り」を代参して続けたのでしよう。

1848年8月には東谷・八坂神社(平和地区)に同村の18人の講員が石宮をまつりました。これには「石尊大権現塔 大天狗 小天狗」と刻まれています。大浦・星宮神社(匠瑳地区)境内にも1863年6月に宮和田講中により石宮がまつられました。稲作に欠かせぬ降雨を神に祈った名残でしょう。

(元 市職員・依知川雅一)

問 秘書課広報広聴班

☎ 73・0080